

原稿綴
比島憲兵隊本部

海

四 保健衛生ニ就テ

第六三兵站病院及南方第十二陸軍病院ニ交ケル諸

大直ニ依レハ花柳病患者ハ漸次増加ノ傾向ニテリ

而シテ軍隊ニ於ケル現狀ハ多ク發ヲ認メ難キニ戰時下

本病ハ著シキ發力ノ低下ヲ來シ更ニ人口國策ニモ由ル

ナル點ヲ認メテ及ホマヘテモノナルニツキテ本病ノ主在狀豫

防法並ニ罹患者ノ處置ヲ速ニ花柳病ノ豫防線ヲ設

スル注意ヲ喚起セントス

一 花柳病ノ種類及在狀

花柳病トハ麻病戰下有梅毒等諸病ヲ謂フモノトシテ

不潔ナル性ヲ依リ傳染ス

麻病ハ麻菌ニ依リ起リ菌ノ體中ニ在リ運送シテ後ニ

五日ヲ經テ發病スルコト多シシ性性期ハ一週ヨリ數月ヲ經テ

シ排膿時厚皮ハ烈ク痛シ毒ハ血液ニ混ルモノトシ

慢性ニ移行スルハ白濁性トシテ少ク最長ニ數年ヲ經テ

Handwritten + micrograph "File of Shroft";
 issued by Philippine KEMPE Unit Headquarters
 Jul 1943. Part classified "Confidential";
 150 pages. (Captain Inyon, P.D., 11 Feb. 1945.)

Contains scattered names of ~~Philippine~~
 KEMPEI officers and enlisted men in the
 Philippines.

Miss Ben - Please make six
 copies of this.

度ナルニ排膿ノ器ト認メズ但シ便也ニハ赤血球ヨリニト
 シ
 一葉ニホシテ之ヲ腔過中列環死ノ構ヲ見ル
 夫在テ尿管ニ將来不在在ノ原因トナリ且亦同列環
 ヲ認セハ其ノ間節ノ管直ヲ残シテ其ノ管トナルニトアリ
 又膿(赤血)眼ニ入ル時ノ赤血性腔膿(膿)腔
 明ナルニト多シ
 (四) 軟性下疳ノ類下疳菌ニ依リ起ルモノニテ病原菌ノ遺
 瘍ノ分泌物中ニ在リテ感染後膿ニテ一日ニシテ膿腐ス
 主トシテ腔膿(カリカビ)包皮(フカヒ)ニ腫ル(膿)ノ
 是端ノ亀甲模(意)又ハ陰莖以外ニ潰瘍ヲ生シ其ノ潰瘍
 數ハ多ク膿性分泌物ヲ生シ發痛アリ
 本在テ經過中疼性横痃(ヨコネ)ヲ尿管スロト多シ
 (ハ) 梅毒ハハスピロヘータバツバニ依テ起リ病原體ハ多ク(クサ)
 ノ分泌物中ニ在リ感染後膿ニ三週間ヨリニ病状見入

節ニ硬クテ疼ナキ小創(初期硬結又ハ第一期梅毒)ヨ

シテ、次テ數週間後ニハ頸重頸痛、發熱等、赤腫症

ナリ。皮膚骨ニ種々多擾ナル後ニ多ク生シ又頸發之ケ腫ケ

或ハ聲ク嘎レル等、複雜ナル症狀ヲ呈ス(第二期梅毒)

更ニ數年後ニハ骨筋肉、内臟器官ニ浸襲腫ヲ生ス

(第三期梅毒)終ニハ腦脊髓ヲ侵シテ精神、病ヲ發シ又ハ

運動失調ヲ來スコトアリ(第四期梅毒及變性梅毒)ソレ

フニナラス梅毒ハ子孫ニ病毒ヲ傳ヘ早産、流産、原因トナリ

又ハ先天梅毒兒或ハ白痴兒等、亦産、因トナル

(二)第四性病、病原體ハ濾過性病原體ト云フ極マテ微小ナル

菌ニテ時トシテハ、ガツクシテモ透過スルコトアリ、感染後何等

ノ初期症狀ヲ呈スルコトナク、突然、鼠蹊淋巴腺腫脹ヲ來シ

疼痛ナク是症、加ハルニシテ漸次、四圍急淋巴腺、發シ増

シテ、ヤカモ、鰓、咽、舌、時ニハ、喉、大トナリ皮膚面ヨリ各淋

巴腺、腫脹ヲ來スル也、加クシテ、

急淋、

二期

ハ
ニ
ヒ

ニ母ニ化膿自潰シテ皮膏ニ敷タクノ孔ヲ穿テ惡臭
ナル膿ヲ出シ慘多滲タル在狀ヲ呈マルニ至ルニ是ニ非病後
肛門狭窄ノ尿道狭窄ヲ起スニトアリ、本病ハ比鳥
ニ於テ甚々多シ

2. 療治法

比鳥ハ花柳病特ニ多ク且ツ其ノ病狀モ極メテ惡質
ナリ故ニ花柳療治法ノ必ズ之ヲ勵行セラレ度
ハ性交ヲナスニ際シテハハスヤツクヲ用ヒ且其ノ破損ヲ避ハ
ルコト

(四) 或可ク「ワセリン」ヲ「ガツクレ」ニ塗布スルコト

ハ性交後ハ確實ニ排尿シ且ツ過マン刺水又ハ温湯ニテ洗
滌スルコト

(五) 沈痾時ハ絶對ニ交接ヲ爲ササルコト

(六) 承陽堂ニ絶對出入セサルコト

3. 罹患時ノ處理

花柳病ハ姑息ナル素人療法等ニヨリ病狀ヲ遷延
セシムルハ絶對ニ禁物ニシテ斯ル場合ニハ到底ノ根治
ハ望ミ得ヌサレハ一カ一本病ニ罹患シタル時ニハ遷延後巡
スルコトナク直診シ其ノ初期ニ於テ強力徹底的ナル治療
ヲ受クル事肝要ナリ